

賜物を用いる

解き明かしと預言

前回の学びで、他の言葉で話す、超自然的しるしを伴った聖霊のバプテスマについてお話ししました。神の目的において、聖霊のバプテスマは単なる入り口であると、私は信じます。それがゴールなのか、入り口なのかということが、過去のペンテコステのムーブメントで議論されました。そして、いくつかのペンテコステ派が、「救われ、水のバプテスマを受け、聖霊のバプテスマを受けた。異言で話している、私は到達した。」という立場をとった時がありました。残念ながら、それは正しいものではなく、自分は到達したと考えていた人たちはまさに消えてしまいました。バプテスマはゴールではなく、入り口です。それは、終点ではなく、超自然的な力を生きる、人生の始まりです。通常、ほとんどの人の経験において、聖霊のバプテスマは、御霊の超自然的な賜物やその他の様々な超自然的な体験への入り口であると私は信じます。まったく自然のままの平坦なクリスチャン生活を送ることは、不可能だと思います。それは、超自然で満ちています。使徒の働きは 28 章ありますが、そのすべての章に、まさに超自然的な出来事の記述が含まれています。使徒の働きの書は、主が意図される教会の姿の唯一の公的な記録なのです。

ですから、バプテスマに続き、私はこのセッションと次のセッションで超自然的な御霊の賜物を取り扱いたいと思います。まず、第一コリント 12:8-10 にあるリストから読みましょう。そこには 9 つの賜物が見られます。

「ある人には御霊によって知恵のことが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことが与えられ、またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、ある人には奇蹟を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。」

聖書学者の間では、通常それらの 9 つの賜物を 3 つずつ 3 グループに分けます。これは教理ではなく、利便性のためです。この学びで私が取り扱う賜物に焦点を当てる前に、そのことを簡単にお話しします。

3 つの啓示の賜物があります。知恵のことが、知識のことが、そして 3 つ目は、霊を見分ける力です。これらは啓示の賜物です。

また、力の賜物と言われる 3 つの賜物があります。信仰、奇蹟、そして 3 つ目は、そう、癒しです。

そして、残りの 3 つの賜物は、人間の声帯を通して働くので、通常、声の賜物と呼ばれます。とても興味深いことに、舌はからだの中で問題となる器官であるため、常に問題に上がるのは、これらの声の賜物です。声の賜物とは、異言、解き明かし、預言です。

この学びでは、その 3 つの声の賜物を取り扱います。聖霊のバプテスマのしるし、すなわち、新しい言葉で語ることについては、すでにお話ししました。実は、それは異言の賜物ではありません。異言の賜物は、『舌の種類』、『多くの舌』と呼ばれます。言い換えれば、それは単にもう一つの言語を話すことではありません。私は、聖霊のバプテスマを

受けたすべての信者は、いつでも、別の言語で主と個人的に語るために、神による権利と賜物があると信じます。パウロは、I コリント 14 章でそれについて言っています。「異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです…異言を話す者は自分の徳を高め…」つまり、異言をはなすことには 3 つの機能、3 つの理由があります。一つ目、神に話す。これは特権です。みなさんのうち何人が、異言で話すことは特権だと同意していただけますか。生ける神と霊と霊で直接話すのです。二つ目、あなたの傲慢的な小さな頭では理解できない奥義を話す。そして 3 つ目、あなた自身の徳を高める、建て上げる、です。多くの人がこう尋ねるでしょう。「異言で話す目的は何ですか。」明確な答えは 3 つです。神と直接話す、奥義を話す、あなた自身を建て上げる。他の理由がないなら、それらで十分でしょう。

私は、異言の完全な賜物の本質は、それ以上のものであると思います。異言の本質は、異言の目的とは異なります。別の異言の種類は、解き明かしが伴う、知らない言葉を集会の中で大きな声で話すことです。異言のもう一つの目的は未信者に対するしるしです。これは非常にまれで、ほとんどのカリスマ派は、そのようには考えていません。しかし、神の民がともにいる時、あるいは神の民が働いている時、ある信者が自分では知らない言葉を話し、その場にいる未信者がその言葉を理解できるというときに起こります。それは未信者に対するしるしです。

今は私の義理の息子となっている一人の若者が、昔、ロンドンの通りから集会に連れて来られました。彼は、ウェールズ州出身です。ご存知かどうかわかりませんが、ウェールズ人は、誇りとする自分たちの言語を持っています。ある伝道集会での出来事で、私はちょうど福音のメッセージを語り終えたところでした。そこにいた一人の年配の紳士が異言で話しました。私は腹が立ちました。彼がしたことは、まったく不適切で、私のメッセージを台無しにしました。そのあとのことはよく覚えていませんが、私の娘の一人がその集会に連れてきた若者が、娘をつついて、「どうして、あのおじさんは僕の罪をみんなの前で話すんだい？」と言ったそうです。一言もウェールズ語を知らないその紳士が、ウェールズ語を話し、若者はその10分間で罪を認めたのです。

何年も前、アメリカのシアトルの聖ルカ教会に、病院の患者を訪問している女性がおり、彼女は一人の男性患者に英語で話しましたが、彼は英語がわからなかったので、応答しませんでした。彼はそこに病気で臥せっており、彼女は激しいカリスマ派の一人だったので、異言で話しました。すると、彼はぱっと明るくなり、彼女に答え、彼女も彼に答えるというふうに、少しの会話をしました。その男性はとても励まされました。彼女は自分が話している言葉が何なのかを知らませんでした。彼女はのちに、それがカナリー島スペイン語という、彼の母国語であることを知りました。

少し前に、私の友人がロシアにいました。彼女は、地下鉄でロシア人の隣に座りましたが、その男性はとても悲しそうに落ち込んでいるようでした。彼女は「何か彼のためにしてあげたい。」と思いました。ですから、彼女はただ主に信頼し、口を開けると、ロシア語で話し始めました。

それらは例外で、普通ではありませんが、それも未信者に対するしるしの一つです。

また、異言で話すことには多くの異なったかたちがあり、あなたは異言で話しているときに、非常に怒っているように感じる経験をしたことがある方はどれぐらいいらっしゃいますか。つまり、信じられないでしょうが、激流のように出てくるのです。それは、あなたが悪霊に向き合っている時であると、私は信じます。あなたは、どのように祈ったらいいいのか、

どのように言ったらいいのかわからないのですが、聖霊がそれをしてくれます。

そして、単に賛美のための異言があります。それは、シンプルに、神とのコミュニケーションです。つまり、異言は非常に豊かな領域です。

今はそれ以上のことを取り扱わず、他の2つの声の賜物である、解き明かしと預言に進みましょう。まず、定義から始めなくてはなりません。解き明かしの賜物は、異言の賜物とは切り離せません。しかし、誰かが聖霊によって知らない言葉話しているなら、解き明かしの賜物は知的理解を通してではなく、聖霊の洞察によってその本人や別の人、知らない言葉で語られたものを、みな知っている言葉ではっきりと話すことを可能にします。それは解き明かしで、完全な翻訳ではありません。それは興味深いことです。外国で通訳者を介して話したことがある方もいらっしゃるでしょう。私は何度も経験してきました。そして、通訳者はみなそれぞれ異なるということを発見しました。ひとり一人が特定の単語を用い、多くの単語を使う人もいれば、それほど多くの単語を使わない人もいます。一度、ケニアに行ったカナダ人が、その国で最も優れた通訳者の一人を通して話していました。彼が短い文を話すと、その通訳者は2分ぐらい話しました。あとで、そのカナダ人は、「私はそんなにたくさん話しましたか。」と通訳者に聞きました。そこで、その通訳者はこう言いました。「いいえ。でも、あなたが言ったことを彼らに理解してもらうために、あれだけのことを言わなければならなかったのです。」それが、通訳です。それが文章のコミュニケーションであり、通訳という領域にはかなりの柔軟性があります。

しかし、解き明かしとは、語られた知らない言語を、知っている言語で伝えることです。

預言は、さらにもう一步先のものです。預言とは、聖霊によって与えられたことばを、知られている言語で話すことです。それは、人間の理解から来るものではなく、聖霊によって超自然的に与えられます。解き明かしと預言の違いは、解き明かしは、知らないことばを語ることに続いて起こるもので、その発言とつながりがあります。預言は、単に知られている言語を話します。私が思うに、ほとんどの場合、神の民が集うところでは、解き明かしは伴わないけれど、預言が異言のあとに続いて起こります。そのような異言は、神の民の注意を引き、続いて起こる預言のための道備えです。

今からの30-40分、みなさんのために解き明かしと預言の練習を導きたいと思います、これまでも大きなグループでやってきたので、今日もできると思います。人が多いか少ないかは問題ではなく、人々が神のことばを信じ、それをしたいと願うかどうかによります。その体験をしたいと願い進み出るなら、あなたは神との個人的なコミュニケーションの新しい領域に入っていきます。

前の学びで、あなたの場所を見いだすようにとお話ししました。神からの召命を求めるチャレンジを受けた方もいらっしゃるでしょう。これは、神があなたをいるべき場所へ導き始める方法の一つです。神が解き明かしを通して与える、人生への導きのことばを受け取る時、人々の目が喜びの涙であふれるのを私は見てきました。それは、神をさらに現実的にさせるものです。また、霊的生活全体をさらに現実的にさせます。

まず、一般的な賜物の練習のために、いくつかのみことばの励ましを紹介することから始めたいと思います。これは、第一段階です。最初のみことばは、I コリント 12:7と11です。パウロが言っている9つの御霊の賜物のリストを紹介し

ます。

「しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。」

賜物は、御霊の現れであると言っています。あなたのうちに住む御霊は、目に見えず、人間の感覚で気づくことはできません。しかし、賜物は人間の感覚にインパクトを与えます。それは、あなたの中にある聖霊を人間の感覚とつなげます。それは個人的に与えられますが、すべての人の益のために与えられるのです。つまり、もしあなたに預言を与えられたのに、恐れてそれを分かち合わないなら、あなた自身を欺くだけでなく、キリストのからだにある人々をも欺くことになるのです。お分かりでしょうか。それは、管理責任であり、気分次第で自分のために用いるようなものではありません。あなたの責任です。神はあなたを通して隣の人に語りたいと願われるかもしれませんが、神は、会衆全体に語りたいと思われるかもしれません。また、神は説教者に語りたいと思うかもしれません。ですから、「気分が乗らないなら、私は解き明かしをしません。」という態度を取らないでください。なぜなら、それは無責任なことだからです。それは、すべての人の益のためにひとり一人に与えられるのです。皆のために。ひとり一人に。

同じ章の 11 節です。

「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

「おのおのに、それぞれの賜物」とあります。パウロの姿勢は、一人一人の信者が御霊の現れを得る権利があるというものです。しかし、御霊は私たちひとり一人にどのように現れるかを決定します。

そして、その章の最後、31 節です。

「あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。また私は、さらにまさる道を示してあげましょう。」

もちろん、それは次の章の愛の道です。多くの人は、そのみことばを、ペンテコステ派を批判するために用います。「愛はもつと素晴らしい道だ」と。しかし、それはパウロが熱望して求める最高の賜物と言っている事実を無視するものです。愛は賜物ではなく、愛は道であり、実なのです。ですから、もしあなたが真剣に最高の賜物を熱心に求めているのなら、私たちは何をしていることになりますか。みことばに従っていないということです。みことばは、それを求めなさいと言っています。

以前言ったことをもう一度言いましょう。賜物はおもちゃではなく、道具です。仕事をするために必要なものです。そして、もしあなたが神の備えを拒絶し、働きをしないのなら、あなたがしなかった働きのために神に責任を問われることになります。

そして 14 章 1 節です。

「愛を追い求めなさい・・・」

多くの人がそこで止まってしまいましたが、続きがあります。

「また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。」

愛を追い求めなさい、もしくは御霊の賜物を求めなさいと言っているわけではありません。どちらかひとつではなく、愛を追い求め、御霊の賜物を求め、特に預言を求めなさいということです。みなさんは、今、預言を求めておられますか。そうでないなら、みことばに従っていないことになります。

そして、26 節。

「兄弟たち。では、どうすればよいのでしょうか。あなたがたが集まる時には、それぞれの人が賛美したり、教えたり、黙示を話したり、異言を話したり、解き明かしたりします。」

神の民が集まる時、私たちはただひとり一人が受けるだけでなく、一人一人が分け与えるべきです。私たちが分け与えることのできる主な方法の一つが、御霊の賜物の中から分け与えることです。それが神の等しさです。ある人は、天性の賜物があり、知性的で、知識があり、明確に発言でき、恥ずかしいと思わず、立ち上がって、時には長く話し過ぎることがあります。しかし、ほとんどの人は、内気で、「私に何ができるでしょうか。」と言います。もしそれが、あなたの持って生まれた能力であるとしたらそうかもしれません。問題の本質は、神はあなたに超自然的な能力を与えられたということです。パウロは、神は最も必要としている部分にその能力を与えたと述べています。あなたの教会に、一人は医者、もう一人は清掃婦、掃除の仕事をしている女性がいます。霊的でない平均的な教会では、医者は教会役員になり、清掃婦は教会でただ椅子に座っているだけです。すべての人が、そこが彼女の居場所だと思っています。しかし、聖霊が動かれると、医者は教会役員のままであっても、清掃婦は預言者となります。お分かりですか。それが神の知恵、神のもし、私たちが超自然を拒絶するなら、単に自分の限度の中に自分を縛りつけることになります。

さて、それら2つのことは逆の順序で起こるということを覚えておいてください。特に、解き明かしについてです。では、解き明かしの賜物の練習へと導くときに来ました。準備はいいですか。あなたの決断次第です。解き明かしのために聖書が私たちを励ましている箇所を紹介します。I コリント 14:5 です。

「私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが・・・」

果たして、バプテスト派の教会のどれぐらいがこのことを知っているのでしょうか。「私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいます。」みな、とは何人でしょうか。みなは、全員です。しかし、それだけではありません。それは、最初の部分に過ぎません。

「私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまさっています。」

この章のカギとなる言葉は、「徳を高める」であることを理解して下さい。すべてのことは個人や教会を建て上げるために導かれます。パウロは、異言で話すことは素晴らしいが、それは自分自身を高めるだけに過ぎないと言っています。

あなたが預言をするなら、あなたは教会を高め、会衆全体を高めているのです。しかしパウロは、もしあなたが異言を話し、解き明かしがあるなら、それは預言と同じくらい素晴らしいものであると言っています。

そして、同じ章の 12-13 節。

「あなたがたの場合も同様です。あなたがたは御霊の賜物を熱心に求めているのですから……」

あなたは御霊の賜物を熱心に求めていますか。もしそうなら、このことが当てはまります。

「教会の徳を高めるために、それが豊かに与えられるよう、熱心に求めなさい。こういうわけですから、異言を語る者は、それを解き明かすことができるように祈りなさい。」

さて、聖書が何かのために祈ることを教えているなら、聖書がそれを私たちに願っているということを、私は単純に信じています。神のみこころではないことのために祈るようと聖書が言っているとは思えません。それは私には信じがたく、まったく非論理的です。では、聖書は異言で何をするために語るようにと言っていますか。解き明かしのために祈るのです。ですから、あなたが異言で語るなら、次にあなたがすることは、解き明かしのために祈ることです。

あなたの励ましのために、アウトラインの最後に行きましょう。祈りの 2 つの原則です。最初に、I ヨハネ 5:14-15 です。

「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すでになえられたと知るので。」

問題は、神のみこころにかなう願いをしているかどうかです。もし、そうだとしたら、神は私たちの願いを聞いてくださいます。そして、神が聞いてくださると私たちが知るなら、私たちが求めることは何でも、かなえられると知るので。問題は、神のみこころを祈っているかどうかですね。それがみこころなら、神は聞いて、その願いをかなえてくださると知るので。

異言を話し、その解き明かしのために祈るようと、神が言っているなら、それは、神のみこころが解き明かしであるということを示していると思います。そうでなければ、神はそうしなさいと言わないでしょう。

そして、受けるときについてです。これはとても重要です。マルコ 11:24 です。

「だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」

あなたはいつ受けたのですか。そう、祈った時にです。そして、もし神のみこころを祈っているなら、神は聞いてくださり、かなえてくださると知るのでしたね。

では、とてもシンプルなことをしましょう。一般的な確信を見てみましょう。前の学びで読みましたが、イエスは、あなたがパンを下さいと言ったら、石をもらうことはないと言われました。あなたが魚を下さいと言ったら、蛇をもらうことはありません。卵を願ったら、サソリをもらうことはありません。あなたが良いものを願ったら、悪いものをもらうことはありません。隣の人にそれを言ってください。「あなたが良いものを願ったら、悪いものをもらうことはありません。」

では、やってみましょう。準備はいいですか。やり方を説明します。私が始める合図をしたら、みなさんが自分自身を脇において、主に向かって異言で話してください。いいですか。あなたの意志がスイッチであることを忘れないでください。あなたがスイッチを入れ、あなたがスイッチを切ります。5分間は何も話さないでください。なぜなら、あなたの小さな頭の中は、「解き明かすことなんて私にできるのだろうか。」と考えてしまうからです。お分かりですか。1、2分から始めますので、小出しにしないでください。それは、異言を話すときの大きな間違いです。話して、やめる。いいですか。解き明かしの賜物を練習する人は時に、人々が異言で話すと、「さあ、解き明かしを始めよう。」と考え、すると、人々は別のことをちよつと言う。そしてまた別のことをちよつと言う。少しずつ小出しにしないでください。話し、やめる、そして、次にあなたが行なうことは何でしょう。こう言うのです。「今、主イエスの御名で、解き明かしを私に与えてください。」いいですか。次に行なうことは？ 解き明かす、そうです。あなたがそれを受け取ったと信じてください。もし受けたと信じるなら、それをどうすればいいですか。用いるのです。異言で話し続けしないでください。それはバプテスマのつまずきです。バプテスマに起こる問題は、人々が自分の言語で話し続けることで、すると、彼らは異言では話せないのです。なぜなら、あなたは同時に2つのことを話すことができないからです。それはあべこべです。あなたは、神があなたに語ってほしいと願っているとあなたが感じることをすべて話すところまで異言で話します。神はとても恵み深いお方です。つまり、神はあなたの信仰のほかりを超えて、あなたを連れて行くことはありません。そして、あなたはそこでやめて、それ以上異言で話さず、「主イエスの御名によって、私に解き明かしを与えてください。」と言います。そして深呼吸をして、解き明かしをします。いいですか。

私の経験からお話しますが、私は、そのことが何千人にも働くのを見てきました。私たちはそれぞれ違っています。おそらく200名ぐらいが今ここにいるでしょうが、神にとってそれは問題ではありません。あなたは直接、神とつながるのです。

あなたが話すとき、隣の人の邪魔にならないように、あまり大声で話さず、自分で聞こえる程度の声で話してください。いいですか。音速を超えてください。それをしばらく行なったら、いったん止まって確かめて戻ります。

興味深いことをお話しましょう。通常、解き明かしをするとき、2つのうちのどちらかの形式になります。賛美と礼拝、もしくは、神があなたの唇を用いてあなたのためのメッセージをあなたに語っているかのどちらかです。私がこれを最初に行なったときの割合は、賛美・礼拝が60%で、40%は、神がその人に語っていることでした。しかし、それは変化しており、今は、それが逆転しています。それは、神がもっとも神の民に話したい、それが通常で60%以上、そして賛美・礼拝が40%になるように願っているという暗示だと私は思います。あなたが何を求めるかを自分が決めるのではありません。それは聖霊が決めることです。何を受け取っても感謝してください。それは光栄なことです。準備はいいですか。

今、あなたは異言で話し、止めて、こう言います。「イエスの御名によって、解き明かしを与えてください。」いいですね。

今、異言で話し終えているはずですよ。ある人はすでに解き明かしを受け取っています。あと1、2分時間を与えましょう。はい、そこでやめて、チェックしてみましょう。何人ぐらいが解き明かしを受け取りましたか。手を挙げてください。少し手を挙げたままにしておいてください。なぜなら、これはかなり良い証拠です。だいたい90%ぐらいですね。では、手を下ろして、よく聞いてください。賛美・礼拝を受け取った人は何人いますか。神があなたの唇を用いて語ってくださったという人は何人いますか。見てください！これが、神が教会になされる本当のしるしです。それを喜んでいる方はどれぐらいいますか。つまり、主からの励ましのことばをもらった人は何人ぐらいいますか。導きをもらった人は？素晴らしいですよ！

さて、受け取らなかった人たちは、取り残されたと感じないでください。あなたがしなければならないことはこれらの人々がしたことを行うことです。神には、えこひいきがありません。もう一度やりましょう。解き明かしの最後の練習です。異言で話し、止めて、神に解き明かしを求める。いいですか。あまり多くの時間は与えません。時間を取ればとるほど、たぶんあなたはそれをしなくなるからです。両足で、しっかりと飛び込んでください。

では、今から確かめてみましょう。励ましの必要な人たちに、それを試したいと思います。先ほど受け取らなかったけれど、今受け取った人はどれぐらいいますか。手を挙げてください。一人いますね。他には？もう一人いますね。ハレルヤ。その後ろの女性も受け取りましたね。素晴らしい。アーメン！

さて、ステップ3は、とてもシンプルです。何でしょう。預言ですね。預言への励ましをみことばから少し見てみましょう。Iコリント14:1です。一緒に読みましょう。

「愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。」

今、隣に誰がいるなら、その人にそれを言ってください。聖書は互いに語りなさいと言っています。次に、Iコリント14:23-25です。これは、教会全体が一か所に集まる、教会の集会の描写です。パウロは言っています。

「みな異言を話すとしたら、初心の者とか信者でない者とかが入って来たとき、彼らはあなたがたを、気が狂っていると言わないでしょうか。」

もし、ある教会ではそのようなことがあります。みな集会に来て、その全員が異言で話すなら、信者でない人たちはその人々を気が狂っていると言います。しかし、パウロはこう言います。

「しかし、もしみな預言をするなら……」

注目してください。パウロはみな預言できると考えています。

「しかし、もしみなが預言をするなら、信者でない者や初心の者が入って来たとき、その人はみなの方によって罪を示されます。みなにさばかれ、心の秘密があらわにされます。そうして、神が確かにあなたがたの中におられると言って、ひれ伏して神を拝むでしょう。」

多くのペンテコステ派の問題が、決して十分なところまで行かなかったことであることを理解してください。彼らは異言を話し、それ以上先に行きませんでした。そして、非常に多くの人々がペンテコステ派の集会に入って行って、こう言ったのです。「彼らは気が狂っている、近づきたくない。」問題は、神の備えにあったのではなく、その備えを用いなかった神の民にありました。私たちに必要なのは、異言を話すところからその先の預言に行くことです。人々に対して、私たちが自然には知ることのできない彼らについてのことばを与えることです。お分かりですか。彼らの心の秘密が明らかにされることです。

あと2つのみことばがあります。14章31節。

「あなたがたは、みながかかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができるのです。」

何人が預言できますか。全員です。そのみことばを隣の人に読んでください。

さて、これは私たちが行なっていることです。パウロは、学びの時間を持つことができると言っており、それは教会全体の集会ではなく、学びのための集会です。ちょうど、これがそれです。みなが預言できることを一緒に学んでいます。そして、確かに、皆が励まされるでしょう。

もう一つのみことばは、39節です。

「それゆえ、私の兄弟たち。預言することを熱心に求めなさい。異言を話すことも禁じてはいけません。」

預言することを熱心に求める。今、預言することを熱心に求めることをみなさんの心に、神が置いてくださるように祈ります。神の恵みにおごらず、背かず、神がするようにと言われることをしているのです。一人一人が。個人的にみな預言できます。互いにはありません。それはまたあとで学ぶでしょう。しかし、今やろうとしていることは、練習です。みんなの前で始める前に、個人的に練習することが良いことであると知っていらっしゃいますか。

では、まず祈りましょう。祈りなしでもできますが、宗教的にならないために祈ったほうがいいでしょう。今から何をしようとしていますか。異言で話すのではなく、何をしますか？ そう、預言です。あなたもできると信じますか。アーメン。

「父よ、聖霊を通して、今この場所に私たちと共にいてくださる祝福を感謝します。聖霊さま、あなたを歓迎します。聖霊さまが神の個人的な住まいとして地上におられることを知っています。あなたをほめたたえます。あなたは主であり、今ここに主としておられます。主よ、あなたの民が預言することを熱心に求めるところまで導いてくださいました。ですから、主よ、イエスの御名によって、預言の賜物を通して彼らを解き放ってください。あなたの栄光のために。イエスの御名によって。アーメン。」

自分に聞こえるぐらいの声で話すのが適切です。音速を破る何かがあります。

(会衆の預言)

「私の子どもたちよ。あなたがたをいやすためにあなたを呼び集めた。私の子たちよ、私はあなたを愛している。私のことばを教えるために、あなたがたを世界の国々に遣わす。愛する子たちよ。私のもとで安らぎなさい。私のことばを伝えよ。世界中に私を知らせよ。愛する子たちよ。私に安らげ。私はあなたがたを愛している。」

アーメン。それは発掘された賜物ですね。主との個人的な出会いを避けないでください。それは私たちすべてに対する励ましの言葉です。神に感謝してください。私は、みなさんひとり一人が個人的に解放されてほしいのです。

神は、キリスト・イエスにある人々を罪に定めることはない、みなさんに伝えるように私を促しています。もし、あなたが罪責感にもとにあるなら、それを受け入れないでください。

(会衆の預言)

ハレルヤ。それはどこのことばですか。それはあなたの母語ですか。フランス語ではないのですか。あなたの母語なら、私はわかります。私は以前フランス語で預言していました。第二次大戦でフランスの海軍といたときに、私はフランス語の最高に美しい預言をもらいました。そのように、さまざまな形があります。せばめないでください。

どのくらいの方が預言をもらいましたか。ちょっと手を挙げてください。すばらしい。

では、受け取らなかった方々、もう一度やってみましょう。がっかりしないでください。ただ主に向かって言いましょ。 「主よ、導いてください。私が縛られているなら、解き放ってください。」ある人は恐れに縛られ、ある人は恥ずかしさに縛られているかもしれません。しかし、ためらわないでください。いいですか。「父よ。この時間にあなたがなして下さったことを感謝します。恐れや恥ずかしさ、またほかの力に縛られている人々を今解放し、主よ、彼らにこの素晴らしい預言の賜物を与えてくださるよう祈ります。イエスの御名によって。アーメン。」

とても素晴らしいです。中には、自分のためのことば以上に、神の民に対しての語りかけを受けたと感じる人を解放します。ちょっと立ってください。その場で少し振り向いて、人々に聞こえるように話してください。神があなたに与えたものがなんであれ、彼らに与えるのです。

(会衆から)

「あなたがそれらを受け取るなら、それは、主に栄光を帰するためですが、みなさんと私の妻のためです。」

「主は、インドに行く扉をあなたのために開いています。」

主よ。笑ってすみません。しかし、私たちは、長い間インドを避けようとしてきました。エルサレムに親しいユダヤ人信

者がいて、彼は私たちがインドに行くことを青ざめた顔で祈ったので、それは本当の預言ではありません。それは知識のことばですが、いいでしょう。それは私に必要なことばです。

他に、人々のためのことばが与えられた人はいますか。忘れてはならないのは、それはあなたの益のためではなく、みなさんの益のためです。はい、立ち上がってはつきりと話していただけますか。

(会衆から)

「わが子たちよ。私はどれほどあなたを深くあなたを慕っているか。私のはらわたはあなたのために動かされる。そば私の足もと近くに来てほしい。近くに来て、私があなたを慕うように、あなたも私を慕ってほしい。そばに来て座り、親しく語ろう。私はあなたを愛している。」

それがあなたのためであると感じる人はどれくらいいますか。いいですね。神をほめたたえます。

さて、さらに素晴らしいことばがあるか見てみましょう。私たちはすでに素晴らしい言葉を受け取りましたね。また、あなたは、預言の賜物が来たとき、実に様々な人々からの預言であるのに、その結果は、一般的なテーマとなる傾向があることに気づきます。そのテーマとは、私たちに對する神の愛、そして神の大使として全世界に私たちを遣わすという神の願いで、素晴らしいものです。私の心はアーメンと言っています。ですから、主の前に待ち望んで、恥ずかしがらないでください。神が何かを与えてくださっていると感じたら、あなたの心が高鳴ったら、きっとそうでしょう。手を挙げて立ち上がってください。順番に行きましょう。そこの女性、立ち上がってください。

(聞こえない)

アーメン。ありがとう。

(会衆から)

「私は主、あなたの神である。私はあなたを決して離れない。永遠にあなたを愛する。」

アーメン。このように、そのテーマは神の愛と励ましです。はい、では立ってみんなに語ってください。

(会衆から)

「これは私の世界です。私の守りがあなたが出て行くときに、あなたの前を歩きます。ですから、恐れる理由は全くないのです。」

アーメン、私たちが受けたもののいくつかは不完全な預言です。まったく正しいのですが、例えばあなたが最初に泳ぐとき、10往復はできません。つまり、これは学びで、進歩するものです。御霊の賜物の練習で、完全に実践を始める人はごくわずかです。練習する前に完全にされるのを待つ人たちは、まったく練習したことがないのです。

あなたに感謝します。他にいますか。まず、私の妻、それから後ろの女性です。前に来てマイクで話しますか。

「『私はあなたの疑いと恐れを見た。しかし、私のための愛も見た。あなたの疑いと恐れを今取り除き、どんなときにも私があなたと共にいることをあなたにわかってほしい。私は決してあなたを離れず、あなたを捨てない、確かに、私

はあなたの前に御使いを遣わす。御使いたちは道を備え、あなたが入って行くとき、ただあなたは入るだけでよく、実を集める。豊かな収穫が待っている。私はあなたを収穫における働き人として、集める者として整える。だから、あなたの疑いと恐れを私の足もとに置きなさい。私の喜びと平安、力をあなたに与える。』と主は言われます。」

では、主が言われることを行いましょう。預言を聞かずに、「興味ないな。」と言わないことが重要です。私は人々が「素晴らしい集会だった。4つの預言があったね。」と言って教会から帰って行く、ペンテコステ派とカリスマ派の教会にいました。私は、「預言は何と言っていましたか。」と聞くと、「覚えていません。」と答えるのです。神が言われることを行わないなら、神の語ることの素晴らしさはいったい何だと言うのでしょうか。

さて、主は、私の妻を通して、疑いや恐れを持っている多くの人がおり、それらを脇に置きなさいと語りました。今ここで、疑いや恐れにとらわれている人たちのために祈ります。そのような人は手を挙げてください。その方々のために祈ります。なんてことでしょう。教会はこの割合にどのように対処しているのでしょうか。みなさんを、祈りで導きますので、私の後について祈ってください。「主イエスさま、あなたを信頼します。あなたは私のためにいのちを捨てるほどに、私を愛してくださいました。あなたは私の救い主、私の贖い主です。私はいつも、とこしえまでもあなたのものです。私のいのちはあなたの御手の中にあります。誰もあなたの手から私を奪うことはできません。主イエスさま、私は、恐れと疑い、不信仰を捨てます。主イエスの御名によって今、それらのものから私を解放してください。あなたの大胆さ、励まし、力を私に与えてください。聖なる御霊によって祈ります。信仰によって私は手を挙げ、あなたから受け取ります。アーメン。」

「イエスさま、あなたの大胆さと信仰の霊を、いまこの人々の上に降り注いでください。イエスの御名によって、彼らに注いでください。イエスの御名によって。アーメン。」

では、受け取る者となってください。手をすぐに下ろすのではなく、受け取る者となってください。感謝をささげ始めてください。目をさまし、首のかせを自分で振り落して下さい。知性や生まれつきの思い、自分のわずかな才能の鎖から自分を解き放ってください。では、主に賛美のささげ物をしましょう。主よ、感謝します。アーメン。

私の妻の2列後ろにいる姉妹、何かあるようですね。立ってください。

(その女性の声)

ありがとう。あなたの母語が英語ではないとき、それは非常に勇気のいることだと察します。

また、それは完全な預言ではなく、単なる始まりだということを言いたいと思います。いったんそれを始めると、もとに戻ることはありません。いいですか。私は預言を受け取る時、通常は最初の文章だけをもらいます。今、私がそこに座って「そのあと私は何を言うのだろう。」と思うと、それ以上もらうことはありません。なぜなら、信仰がなくては、神に喜ばれないからです。しかし、私が最初の文章を受け取ると、そのあと残りが続いてくるのです。お分かりですか。

みなさん、そうですと言ってください。その左手を挙げている方、そうあなたです。立ってください。

「私の花嫁、あなたは地上の美しさ、私の目の中のリンゴである。あなたのための私の思いと計画は、私の愛と賛美の輝きを世界に。他の人がどう考えるかと恐れるな。私のことばを語り、私のことばを守れ。」

アーメン。ハレルヤ。それは完全なものです。神を賛美しましょう。あなたが預言するのは初めてではないですね。かなり前から、あなたは、自分の賜物を錆びつかせていましたね。あなたは、主に、そのようなことをもう2度としないと言わなくてはなりません。

あと一人にしましょう。そこの若い人。

(聞こえない。)

ありがとう。このようなことをしたのは初めてですか。ハレルヤ。止めないでください。テーマがどれほど一貫しているかがお分かりですか。神の愛、神の私たちへの思い、神は私たちが心配や恐れから解放し、大胆になってほしいのです。

アーメン。みなさん、立って主に賛美をささげましょう。主よ、感謝します。あなたの素晴らしい御名をほめたたえます、主よ。主イエスさま、ありがとう、あなたの御名を賛美します。ハレルヤ。栄光は主に！ 感謝します、主よ。アーメン。